神戸にチャンスがある

2022年度 生徒募集中

イラストじっくり塾
絵本ゆっくり塾
絵本わくわく塾

https://www.gallery.jp





kaiwajuku
絵話塾©

絵話塾は絵本とイラストを学ぶ特別な教室です

絵話塾（かいわじゅく）は、第一線で活躍中の絵本作家やイラストレーターが講師を務める、実践的な講座です。日々の暮らしを楽しく彩りたい方からプロの絵本作家やイラストレーターを目指す方まで、幅広く対応しています。絵が好きでこれから描いていこうとする方、今は絵を描く事から離れている方まで、さまざまな方に対応しています。
授業はメディアで見かける憧れの先生から、直接アドバイスやサポートを受けながら進めていきます。本やインターネットからでは絶対味わえない、情熱や空気感まで体験できる貴重な授業です。先生方は皆さんフレンドリーで親しみやすく、和気あいあいと楽しく学んで、各コースを修了する頃には確実に成長できているでしょう。
あなたも一歩踏み出してみませんか。

※開塾から18年を経て、卒業生の中にはプロで活躍中の方もたくさんおられます。

特　徴

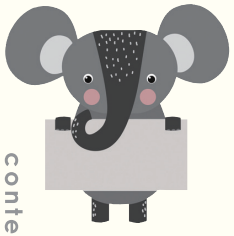
●第一線で活躍している作家が講師陣
教えるプロの先生ではなく、実際に第一線で活躍中の作家が講師。
だから実践的でオモシロイ。

●他の講座もスポット受講できます
在籍中のクラス以外に興味のある他のコースも、卒業生・在校生なら受講できます。（有料）
※イラストレベルアップコース・ドローイングクラス・文章たっぷりコース、絵本レベルアップコースはスポット受講ができません。

●先生との距離が身近に
授業が終われば、憧れの先生と直にお話ししたり、アドバイス等がもらえる場合があります。

●修了展の開催（参加費無料） ※但しDM代として500円いただきます。
1年間の授業が修了すれば、教室の隣のギャラリーVieで2週間の修了作品展を開催いたします。参加は自由です。





contents

コース紹介 — 2
絵本ゆっくり塾 — 4
授業風景
絵本わくわく塾 — 6
授業風景
イラストじっくり塾 — 8
授業風景
秋からの講座 — 10
ドローイングクラス
イラストレベルアップ
絵本レベルアップ
文章たっぷり
講師PROFILE — 12
OB・OGの活躍— 18
Q&A — 19
入塾までの流れ — 20
申し込み用紙 — 21

絵話塾　本科は3コースあります

絵本ゆっくり塾

■特徴

「絵本ゆっくり塾」は、絵本のプロとして第一線で活躍されている講師の方々と共に、ゆっくり学んでいくコースです。
将来絵本作家になりたい方はもちろん、プロは目指さないが自分自身や、誰かのために絵本を作ってみたいという方まで、幅広く対応しています。

■授業内容

このコースでは絵・ストーリー・画面構成・ページ構成など、実際の絵本制作に則したことや、制作上の心構え、編集者目線で絵本の考え方、出版社への売り込みに関することまで、知識や技術の習得だけでなくメンタル面で絵本にとって必要なことも学んでいきます。
例えば、A先生は本の成り立ちからアイデア出しの方法、画材の使い方・選び方といった絵本の作り方全般について。B先生は実験的なミニ絵本をその場で制作・講評。C先生はテーマを決めて様々な形態の作品を完成させるワークショップ。D先生は編集者の立場から絵本に関するお話と作品講評を行う、等々。このように個性豊かな講師のアドバイス・考え方を吸収して、絵本作りに必要な「something」を学ぶことが出来ます。

■ 開講日

2022年9月下旬頃から約1年間
（冬休みあり）

■ 講座数

年間60単位／1単位＝1時間

■ 日　時

Aコース／日曜日午後2:00〜4:00
Bコース／日曜日午後5:00〜7:00

■ 定　員 ※Bコースは10名以上で開講

A・Bとも各約15名

絵本わくわく塾

■特徴

「絵本わくわく塾」は、週末の授業には出られない人や、絵だけではなく、文章も深く学びたい方のためのコースです。
「ゆっくり塾」と同じく、絵本のプロとして第一線で活躍されている講師の方々と共に、わくわくしながら楽しく絵本と取り組む講座です。
将来プロを目指す人はもちろん、絵本が好きでもっと奥深く学びたい方まで、幅広く対応しています。

■授業内容

このコースでは絵本作家や編集者だけでなく児童文学作家もおられるため、絵と文章をセットで学んでいきます。
もちろん「ゆっくり塾」と同様、絵・ストーリー・画面構成など実際の絵本制作に則したことや、制作上の心構え、編集者から見た絵本の考え方、出版に関するさまざまなお話を聞きます。
例えばA先生はお薦め絵本の読み聞かせをしたり、B先生は漢字を使わないで文章を組み立てたり、C先生は絵本作りのきっかけになるアイデア出しの方法を実際に試してみたり、D先生は普段なかなかできない方法で絵を描いたりと多彩な内容です。
個性的な絵本を作っておられる講師の方々が、あなたの絵本作りの応援をします。

■開講日

2022年9月下旬頃から約1年間
（冬休みあり）

■講座数

年間60単位／1単位＝1時間

■日　時

水曜日 午後2:00〜4:00

■定　員

約15名

イラストじっくり塾

■特徴

「イラストじっくり塾」は、絵を描くことが好きでもっとスキルアップしたい人や、暮らしの中で使える絵を描いたり、絵を仕事にしたい方にもお勧めのコースです。
プロのイラストレーターとして第一線で活躍されている講師の方々のテクニックや、経験に即したさまざまなお話を聞いたり、作品を講評してもらいながら、各自のレベルに合わせて自分だけのオリジナルなイラストを、じっくり作りあげていく講座です。

■授業内容

このコースではイラストレーターの仕事のカテゴリーに入るさまざまな作品を実際に作っていきます。
書籍の装画、ＣＤジャケット、オリジナル雑貨、粘土で作る立体キャラクター、クロッキーなど。それぞれ独自の作風を持つ先生方と一緒に、色々なアプローチで自分の絵の世界を拡げていきます。使ったことがない画材や、自分では思いつかないような表現、多彩なテーマに沿った作品を制作することで興味が拡がり、技術的にも精神的にも成長できます。
またプロが仕事の現場で実際に経験した生きた言葉は、これから皆さんが絵を描いていく上でのヒントになるはずです。

■ 開講日

2022年9月下旬頃から約1年間
（冬休みあり）

■ 講座数

年間60単位／1単位＝1時間

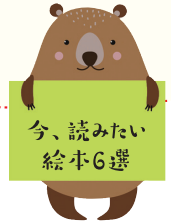
■ 日　時

土曜日 午後2:00〜4:00

■ 定　員

約15名

※授業は2時間が基本ですが、3時間授業の場合もあります。※各コースとも開講日は変更になる場合があります。



『ぐるんぱのようちえん』
作：西内 ミナミ　絵：堀内誠一



（福音館書店）

ひとりぼっちの大きなぞう、ぐるんぱ。ビスケット屋、靴屋、ピアノ工場などで働きますが、作る物が大きくて失敗ばかり。そんなときお母さんに出会い子どものお世話を頼まれ、そこで作った物は！？

『もりのなか』
作・絵：マリー・ホール・エッツ



（福音館書店）

男の子はラッパを吹きながら、ライオン・ゾウ・クマと行列をつくって森をお散歩。そして男の子が鬼になって、かくれんぼを始めました。すると動物たちは消えて、かわりに現れたのはお父さん！

『はっぴぃさん』
作・絵：荒井良二



（偕成社）

なんでものろのろの僕となんでもあわててしまう私が、一緒に願いを叶えてくれる山の上にいきます。でもいくら待ってもはっぴぃさんは現れません。そこで出会った二人はお互いのことを話します。

『てぶくろ』
作・絵：エウゲーニー・M・ラチョフ



（福音館書店）

森の中に落とした片方の手袋にネズミ、カエル、ウサギやキツネがやってきて手袋の中に次々と入ってきます。最後には大きなクマまでやって来ました。手袋の中は超満員！さてどうなるのでしょうか。

『ぞうのエルマー』
作・絵：デビット・マッキー



（BL出版）

ジャングルに暮らすゾウの群れ。自分だけが他のゾウと違ってカラフルな色のエルマー。違っていることが個性であり、魅力であることに気づかず、ゾウ色になりたくてこっそりと群れを抜け出します…。

『はんぶんタヌキ』
作・絵：長新太



（こぐま社）

タヌキがこれから化けますよ、化けますよ、と次々に化けます。しかしいつも半分タヌキのまま。小鳥、キャベツ、さかな、車とどんどん化けていきます。最後は恐竜に化けました。さてどうなるのかな！？

advice & scène

絵本ゆっくり塾

■講師
荒井良二　飯野和好　太田朋　木村真　スズキコージ
高畠那生　はやしますみ　WAKKUN（五十音順）

「絵話塾」では、絵本を教えるプロではなく、実践で活躍されて本もたくさん出版されている作家や編集者が講師を務めています。先生の名前を聞いてもピンとこない方も、絵を見れば分かる方も多いと思います。
授業内容は、教えるというより先生が今まで経験してこられたことを生徒さんに伝えるような授業です。ですから「僕は先生ではないから、名前で呼んでね」という方もいらっしゃいます。
絵話塾に入る前、「絵はあまり描いたことがないのですが、入ってからついていけるかどうか不安です」という声をよく聞きます。たしかに生徒さんの中には始めから絵が達者に描ける方もいますが、それよりも大事なことは、絵本を作りたいのに絵を描いたことがないと自分で理由をつけて、あきらめてしまわないことです。誰にでも「最初」があります。絵話塾で学んで一歩踏み出しましょう。





スズキコージ／オリジナル帽子を作るワークショップ。完成したら全員で南京町をパレード。皆で歩けば恥ずかしくない！

advice

■絵本は「次はどうなるのだろう」と読み進めて最後に読者の予想は裏切って、期待は裏切らない。
■才能とは色々なことを考えて、それを選び取る力。
■自分の都合だけで絵、文章は書かない。
■よくあることですが、絵本のストーリーは自分だけの都合で制作すれば、読み手は、内容が分からないことが多い。



WAKKUN／大きな紙に筆で思いきり描く。まずは先生のデモンストレーション





はやしますみ／（上）絵の具の使い方
（下）ご自身の仕事の説明



荒井良二／先ずは近況のお話。その後で絵本を一冊仕上げます

荒井 良二

この塾の面白さは独特だ。
発想の元を考えるだけでなく
発想の素を身につけることを
実践しているからだ。
それも独特な活動を愉しむ
独特すぎる！講師たちと
物を演出する喜びを
目の当たりにできるからだ。

Arai Ryoji

advice

絵本制作に近道はない。
遠回りが意外と近道かもしれません

■絵本やイラストを講評されて、悔しい思いは力になる。
■ピーターラビットの絵は、擬人化しているように見えても動物学的に正しい骨格です。
■絵が上手いだけでは、絵本は成り立たない。文章も非常に大事。
■絵本の文章は、説明し過ぎないこと。長い文章は読みづらい。
■絵本は「ここではない、別の空間」に誘ってくれるもの。



太田朋／まずは、しりとり絵本から制作





高畠那生／生徒さんからテーマをもらって、描き方を披露。この絵は背景から色を付けています



絵本わくわく塾

■講師
太田朋　スズキコージ　高科正信　tupera tupera
土井章史　はやしますみ　WAKKUN（五十音順）

この「絵本わくわく」コースは平日の水曜日に授業があります。日曜日がお仕事などで通えない方や、このクラスの先生が魅力で遠方から通われるという方もいます。
このクラスだけの先生は絵本作家の tupera tupera さん、児童文学作家の高科正信さん、絵本の編集者の土井章史さんです。日曜日の「絵本ゆっくり」コースとの違いは、絵本のテキストなど文章の勉強もすることです。
このコースは絵本づくりの流れをたっぷり教えてくださる他、多彩なワークショップ形式の授業を行います。例えば tupera tupera（亀山達矢）さんの授業には「スゴロク」があります。まずは皆さんでスゴロクのマスと自分のコマを作ります。作ったマスには止まりたくないものがいっぱい！ゴールが近づけば、スタートに戻るマスもあり、みなさん童心に戻って、思いっきり楽しんでいます。この授業は人気があり、修了しても毎年この授業にスポット受講（p.19 Q&A 参照）で参加する方も多くいます。
入塾する前によく聞かれる質問のひとつに、期間が長いので続くかどうか不安という方がいますが、授業もあと少しで修了する時期になりますと、意外と早くてしっかりと通えました、という方が多くいます。また仕事などで転勤になる場合、次年度に持ち越し制度もありますので、安心して通っていただけます。



tupera tupera ／ツペラさんが用意した「名前」「特徴」「性格」を書いたくじを引いて、生徒さんがお面の制作をします。制作後は皆さんで記念撮影





WAKKUN ／（左）じゃばら絵本の説明。（下）描き終わってから作品の発表







はやしますみ／絵本の「うごき」の勉強

advice

■悲しい・寂しい・感動などは直接的な言葉で表現しないで、自然に感じられる何か別の言葉にすれば絵本らしくなる。
■絵本をもっとも必要としているのは、子どもではなく、大人なのかもしれない。
■魔法や王子・王女さまが登場する絵本や、別の世界にいくお話は昔から名作が多いので、よっぽど斬新なアイデアがないと難しい。
■絵本をたくさん読むことで、読む力が付いてくる。

絵本制作は、
まず自分が楽しむこと。



スズキコージ／制作が終わり皆で記念撮影



太田朋／版画の授業

版画の授業もおります！

絵本は声に出して読んでみる。

■絵本はリズム感も大事。いったんラフができれば、声に出して読んでみる。
■絵本は年齢、経験や立場によってさまざまに読み取ることができるもの。
■どんな内容の絵本にするか迷ったときは、自分のエピソードを膨らませて文章にするのも、ひとつの方法。

advice & scène

イラストじっくり塾

■講師
安齋肇　イナキヨシコ　おさないまこと　たかいよしかず
寺門孝之　寺田順三　福田利之　弓削ナオミ（五十音順）

「イラストじっくり」コースの授業は、年度によって多少違いますが、オリジナルなキャラクター作りや本の装画を描いたり、また実用的な雑貨を作ったり、粘土を使って立体イラストを制作するなど、多彩な内容です。いろいろな授業を受けることで、あなたのオリジナルな絵を発見することもできます。普段の生活のなかで、絵は好きだけど、絵についてお話ができる友だちはそう多くないと思います。「絵話塾」に通われる生徒さんは、年齢も職業も住んでいる所（関西以外、遠くは千葉、沖縄、四国、広島などから通われる方も）も違いますが、イラストやアート、美術館などが好きという共通点で集まっているので、友だちができやすい環境です。イラストコースを修了されても、何人かでグループ展を開いたり、好きな展覧会を見に行ったりして、おおいに楽しんでいます。また他の生徒さんのイラストを見ることで、刺激になったり励まされたりもします。先生方のテクニックも教えていただけるので、今までと違った技法も身につきます。



寺田順三／今回の課題は、出版されている書籍の装画を自分なりに考えて描いてくる、でした





生徒さんの課題作品



おさないまこと／粘土の制作





福田利之／（左）授業中に tupera tupera さんが授業見学、（上）パソコンを見ながら自身の作品を紹介





弓削ナオミ／画材について説明



たかいよしかず／（上）画材の使い方（下）キャラクターの授業



イナキヨシコ／トートバッグにプリントと缶バッジの制作



advice

■何を描きたいか悩んだときは、子どもの頃に好きだったのは何？と考えてみることも大事。
■美術館やギャラリーなどに足を運んで、まずいろいろな絵やイラストを見ることでセンスが養われてきます。
■絵に正解や失敗はないので、取捨選択を繰り返して描く。
■空間の取り方など、構図を考えれば、イラストが印象強くなる。
■普段から雑誌や広告を見て、私ならこう描きたいと考えて、実際に描いてみる。
■粘土などの立体物やコラージュ、雑貨も広い意味でイラストレーション。
■時間があるから絵が描けるとは限らない。時間が無いときほど、絵は描けることが多い。
■説明をしなくても分かるイラストが良い。
■人とのコミュニケーションからアイデアが生まれることがある。

寺門孝之／授業内で描いた作品の講評



絵に正解や失敗はない。

■イラスト（絵）は描く仲間や友だちがいて描けるもの。一人では絵は描けないことが多い。
■描くスイッチが入らないときは、無理して描かない。
■上手くなるには沢山描くこと。テクニックを知りたいなら模写が一番。



安齋肇／課題の発表。安齋さんがひとり一人にアドバイス

おさないまこと／粘土を使って立体の作品作り





2022年 秋からスタートの講座

楽しく絵を描くために

ドローイングクラス　講師　イヌイマサノリ

10月から約半年間のクラスで、「絵本・イラスト」にとって必要な、描く力・観る力を学ぶためのクラスです。また毎年春から行われる絵話塾の本コース「イラストじっくり塾」「絵本ゆっくり塾」「絵本わくわく塾」の授業に役立つ、基礎画力もつけていきます。授業内容は、「モチーフを伝わりやすいようにデフォルメする」をテーマに、人物や静物、色彩・構図も勉強していきます。また外に出てスケッチ等も行っていきます。



イヌイ先生がモデルになって、クロッキーの練習



動物園でスケッチしてから、講評会



神戸空港でスケッチ



イヌイ先生のスケッチ

- **開講日**＞2022年10月29日（土）
- **講座数**＞32単位　1単位＝1時間
- **日　時**＞土曜日 12:00〜午後4:30
- **定　員**＞15名程度（定員になり次第締切）
- **受講料**＞115,500円（税込）
  （授業料100,000円＋通信費・雑費5,000円＋税 11,000円）

イラストのスキルアップ

イラストレベルアップ　講師　山内 庸資／駒井 和彬／朝野 ペコ　今年から新しい講師

月２回の授業で約８カ月間学んでいきます。講師は山内庸資さんと、今期から駒井和彬さん、朝野ペコさんが先生として登場。生徒さんとの対話を通じて、各自のイラストをよりレベルアップすることを目指します。構図・配色・技法など制作に関することから、作品の売り込み・コンペへの応募、SNSの活用方法などをじっくりと継続的に学ぶことで、イラストに対する取り組み方・考え方・制作スキル・自作のプロモーション方法などをよりレベルアップしていきます。



左から山内、駒井、朝野先生。（駒井・朝野両氏は絵話塾出身です）



タブレットで描いたイラストを講評



席を回ってアドバイス

- **開講日**＞2022年秋から約８ヶ月の予定
- **講座数**＞年間40単位　1単位＝1時間
- **日　時**＞土曜日 午後5:30〜午後8:00
- **定　員**＞15名程度（定員になり次第締切）
- **受講料**＞181,500円（税込）
  （授業料160,000円＋通信費・雑費5,000円＋税 16,500円）

絵本制作のスキルアップ

絵本レベルアップ　講師　高畠 純／松田 素子

月1回（2回のときもあります）約1年間のクラスで、講師は 高畠純さんと松田素子さんのお二人です。高畠純さんは長年絵本を出版されている作家の立場から、ワークショップ形式で絵本に必要なトレーニングをします。編集者の松田さんは、生徒さんが作った絵本の講評と絵本をもっと深く理解するためのお話をされます。一年間じっくりと継続的に学ぶことで、絵本に対する取り組み方・考え方・制作スキルなどを、よりレベルアップすることを目指します。



高畠純／授業中に描いた絵を講評



松田素子／生徒さんが持ってきた絵本のダミーを講評



松田素子／絵本にまつわる様々なお話。後半は生徒さんの絵本のダミーを講評

- **開講日**＞2022年秋から約１年間の予定
- **講座数**＞年間40単位　1単位＝1時間
- **日　時**＞日曜日 午前11:00〜午後1:00（3時間授業もあります）
- **定　員**＞15名程度（定員になり次第締切）
- **受講料**＞181,500円（税込）
  （授業料160,000円＋通信費・雑費5,000円＋税 16,500円）

文章を基本から学ぶ

文章たっぷりクラス　講師　高科正信

文章に特化した約8ヶ月間の講座で、伝えたいことがうまく伝わる魅力的な文章を書くことを目指します。基本となる原稿用紙の使い方、句読点の打ち方から、展開の仕方、推敲の際に気を付けることなど、文章を書く時に役立つことばかりです。
課題に対しても、一人一人ていねいに指導されるため、確実に実力がつきます。
基本は絵本や児童文学を書きたい人向けですが、エッセイや小説を書きたい方にもお薦めです。



授業は講義が中心で、課題も出ます







絵本の読み聞かせ







高科先生の著作

- **開講日**＞2022年11月12日（土）から約８ヶ月の予定
- **講座数**＞年間40単位　1単位＝1時間
- **日　時**＞土曜日 午後5:30〜午後8:00
- **定　員**＞15名程度（定員になり次第締切）
- **受講料**＞181,500円（税込）
  （授業料160,000円＋通信費・雑費5,000円＋税 16,500円）

講師 PROFILE＆授業の進め方｜絵本コース

荒井 良二
Arai Ryoji

絵本作家
イラストレーター



山形県生まれ。2005年日本人として初めてアストリッド・リンドグレーン記念文学賞を受賞するなど、国内外で高い評価を得る。『たいようオルガン』（偕成社）で第１回JBBY賞、『あさになったので まどをあけますよ』（偕成社）で産経児童出版文化賞・大賞を、『きょうはそらにまるいつき』（偕成社）で日本絵本賞大賞を受賞するほか、「みちのおくの芸術祭山形ビエンナーレ」芸術監督を2014年～2018年まで務めるなど、その活動の幅を広げている。最新刊は『はっぴーなっつ』（ブロンズ新社）





授業の進め方

僕の授業は、いつもお話から始まります。
最近起こった事、読んだ本、気になる事など……。
授業の後半では、冊子を使って1冊の絵本のようなものを作ります。まあ絵本の準備体操ですね。何も条件がないと作りにくいと思うので、こちらからテーマを決めて作ってもらいます。
例えば、全部のページに1本の同じ線を描く、行って帰って来るお話にする、等。こうした決まり事や制限があると、その中で最大限出来る何かをやってやろう！ 探してやろう！として作るのではないかな。そこから創作のアイデアが生まれてくるのではないかな？と思っています。

飯野 和好
Iino Kazuyoshi

絵本作家
イラストレーター



埼玉県生まれ。長沢セツ・モードセミナーでイラストレーションを学ぶ。69年、雑誌「an an」に連載した『きむずかしやのピエロットものがたり』でデビュー。『ねぎぼうずのあさたろう その１』（福音館書店）で第49回小学館出版文化賞受賞。『小さなスズナ姫』シリーズ（偕成社）で第11回赤い鳥さし絵賞を受賞。『みずくみに』（小峰書店）で第20回日本絵本賞を受賞。最新刊は『つぎのかたどうぞ』（小学館）。
絵本の制作以外に人形芝居の美術・衣装、絵本セミナーの講師など多方面で活躍中。
またブルースハープ奏者としてライブ活動も行っている。

授業の進め方

2004年当初から絵話塾の講師をしていましたが、しばらくお休みをして、2018年度からまた「絵本ゆっくり」コースを担当しています。
また皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。
授業は自作の絵本をカンカラ三味線を弾きながら、読み聞かせをします。
また生徒さんが作った絵本のダミーまたは絵の講評をします。





太田 朋
Ohta Tomo

絵本作家
イラストレーター



兵庫県生まれ。1994年よりポストカードの制作を始め、その後絵本も出版。『きみがはじまる』（学研）『うたたねネックルとネムのくに』（文研出版）等がある。シンプルな絵と言葉による作品は、若い女性を中心に人気が高く、イラストが入った雑貨やカレンダーもたくさん作られている。また出版物の表紙や挿絵、広告、アニメーションなども手がける。関西を中心に作品展を多数開催。







授業の進め方

シンプルな絵と短い言葉で作る表現を得意としています。
授業では、８ページ絵本を作るところから始めて、最後は「自分のエピソード絵本」を作ります。
絵本という枠に収まらないで、自分の作りたい形、大きさ、長さ、手法も自由に作ってもらいます。授業中にアイデア出しをする時は、机を回り、生徒さん達の話を聞き一緒に相談に乗りながら進めていきます。

tupera tupera
亀山達矢

絵本作家



tupera tupera は亀山達矢と中川敦子によるユニット。2002年より活動を開始。絵本やイラストレーションをはじめ、工作・ワークショップ・舞台美術・アニメーション・雑貨など様々な分野で幅広く活動。絵本など著書多数。海外でも様々な国で翻訳出版されている。主な著書に『かおノート』『やさいさん』『パンダ銭湯』など。また『しろくまのパンツ』（ブロンズ新社）で日本絵本賞受賞。NHK Eテレ「ノージーのひらめき工房」ではアートディレクションを担当。2019年アカデミー賞長編アニメ映画賞にノミネートされた、細田守監督の映画『未来のミライ』では、登場するキャラクターデザインを担当。京都造形芸術大学こども芸術学科客員教授
http://www.tupera-tupera.com/

授業の進め方

ボクは絵本だけではなく、ファッション・舞台美術・ワークショップなど広い分野で活動している２人組ユニット、ツペラツペラの１人です。
初回の授業では、今まで出版した絵本がどうやって誕生したのかを、種明かししていきます。日常の中には絵本になる題材が沢山あって、それを絵本に出来るかな……と、いつも考えているのです。『やさいさん』『パンダ銭湯』『うんこしりとり』はそんな日常のアイデアから誕生しました。
みんなでワークショップをする授業もあります。NHK E テレ「ノージーのひらめき工房」でも行っている、簡単な頭の体操から、「巨大すごろく」を作るワークショップまで、毎回楽しい授業です。



木村 真
Kimura Makoto

編集者



東京都生まれ。学研教育出版 幼児・児童書出版部に所属。『Pooka』『おはなしプーカ』の編集長を務める。今までに200冊以上の絵本を企画・編集する。担当した作品に『いつでも会える』（菊田まりこ）『パパはウルトラセブン』（宮西達也）『思いつき大百科辞典』(100%ORANGE)『ぼうしとったら』（tupera tupera）などがある。また絵本コンペ審査員など絵本に関する活動も多数。





授業の進め方

本を出版・販売する側の編集者として、客観的な目で作品を見て講評します。
海外の絵本の見本市などにも出かけて、海外と日本を比較しての違いなども具体的にお話します。
授業では主に「ダミー本」の講評を行いますが、その都度ワークショップなども行います。
例えば「食べ物」の絵本が主流になってきたと感じた時には、皆さんにもそれに関連した絵本で好きな本はないか聞いたり、また食べ物のキャラクターを考えてきてもらうこともあります。
絵本は時代背景も大きく関係しているので広い視野で作ることも大事だと思います。

スズキコージ
Suzuki Kohji

絵本作家
イラストレーター



静岡県浜松市生まれ。1968年新宿歌舞伎町の路上にて初個展、1971年個展「コージズキンの世界」開催。「イラストレーター」の名称ができた頃にデビュー。1987年『エンソくんきしゃにのる』（福音館書店）で小学館絵画賞、1988年『ガラスめだまときんのつののやぎ』（福音館書店）と1989年『やまのディスコ』（架空社）で絵本にっぽん賞、2004年『おばけドライブ』（ビリケン出版）で第35回講談社出版文化賞絵本賞。2009年『ブラッキンダー』第14回日本絵本大賞。2014年姫路市立美術館にて「スズキコージの絵本原始力展」を開催。最新刊は『ポチャッ ポチョッ イソップ』（玉川大学出版部）



授業の進め方

ボクの授業では、何か一つテーマを決めて毎回３時間のワークショップを行います。
今まで作ってきたものは、例えば「帽子」や「靴」。それから「自分に起こった喜怒哀楽を表現してみよう！」など。作る作品は、ダンボールで立体作品や、コラージュの手法で平面作品など何でも全て自由です。
ボクは音楽も好きなので、制作中によくCDをかけます。ジプシー音楽やジャズに至るまでジャンルも様々で、ボクもみなさんと一緒に作ります。 作りながら旅の話もよくします。メキシコが好きで今まで何回も行ってその都度おかしなことに遭遇しました。
作品が完成したら発表会です。さぁ皆で楽しもうぜぃ！

講師 PROFILE＆授業の進め方｜絵本コース

高科 正信
Takashina Masanobu

児童文学作家



愛媛県生まれ。日本児童文学者協会会員。作品に『タンポポコーヒーは太陽のにおい』（理論社）、『モモコ』（文渓堂）、『ふたご前線』『ツバメ日和』『ぼくらの事情』（フレーベル館）など。本塾講師、荒井良二さんとの仕事に『おおきなおおきなさかな』『さよなら地底人』『さよなら宇宙人』（フレーベル館）。また本塾一期生、小林美佐緒さん作画の絵本『たまのりおたまちゃん』『がぶりがぶりのおかあさん』（いずれもフレーベル館）がある。他に『ぼっちたちの夏』（佼成出版社）『たぬきがくるよ』（絵・寺門孝之　BL出版）、最新刊は『はしをわたってしらないまちへ』（福音館）などがある。



授業の進め方

児童文学作家で子ども向けのお話を書いています。
普段は近所の海で釣りをしたり、釣ってきた魚で料理を作ったりして過ごしています。
授業の初めには、最近読んだ本や好きな映画の話をしながら、進めていきます。毎回テーマを決めてそれに合う絵本を、ボクが読み聞かせをしながら紹介していきます。授業のテーマは「幸福のあり方」「私とは誰か」「子どもの秘密」等です。絵本の中にこんなことが隠されているのか、こういうことを伝えたかったのか、という部分を説明します。絵本には沢山の魅力が詰まっています。
あと、文章を書く課題を出します。原稿用紙の書き方も含めて添削してお返しします。

高畠 那生
Takabatake Nao

絵本作家



岐阜県生まれ。東京造形大学美術学科絵画専攻卒業。絵本作家、イラストレーターとして活動中。第4回ピンポイント絵本コンペ入選「メガネをみてよ！」、第25回講談社絵本新人賞 佳作「むかったさきは…」。主な絵本作品に『ぼく・わたし』『チータ大セール』『でっこりぼっこり』（絵本館）『いぬのムーバウいいねいいね』（講談社）『おまかせツアー』『クリスマスのきせき』（理論者）『だるまだ！』『カッパのあいさつ』『あるひこねこね』（好学社）『あいうえおんせん』（くもん出版）『バナナじけん』（BL出版）他多数。『カエルのおでかけ』（フレーベル館）で第19回日本絵本賞を受賞。最新刊は『げたばこかいぎ』（PHP 研究所）
www.nao-takabatake.com/



授業の進め方

ボクは今までと違う視点で絵本を作ります。例えば「描きたいシーン」の絵を何枚か描いて、描いた絵から連想する「コトバ」をつなぎ合わせて絵本を作っていきます。こうすると予測できない作り方が出来ます。
また、今まで自分が作ってきた制作エピソードや、皆さんの前で絵を描いて、描く順番、筆の運び方、色の混ぜ方などを直接見てもらうこともあります。
たまに天気の良い日には外に出て、アイデアを見つけに行くワークショップを行うこともあります。

土井 章史
Doi Akifumi

編集者



広島県生まれ。1988年頃から絵本の編集にたずさわる。1993年東京吉祥寺に小さな絵本の店トムズボックスをオープン。いままで300冊以上の絵本をトムズボックスの名で企画・編集する。多くの絵本作家のデビュー作に関わる。2003年から学研の月刊絵本『おはなしプーカ』の企画・編集を担当。また絵本のワークショップ「あとさき塾」を運営し、多くの絵本作家を輩出している。最新刊は『絵本をつくりたい人へ』（玄光社）。
2019年、トムズボックスの店舗を西荻窪に移転。

授業の進め方

トムズボックスの名で今までに300冊以上の絵本を編集しています。その経験を生かした編集者ならではの視点で、授業では主に「ダミー本」の講評を行います。
また、作家さんとの制作秘話なども時々お話します。子どもを喜ばせてみせる！ そんな心意気、意気込みを感じる作品をぜひ作って下さい。楽しみに待っていますよ！





はやしますみ
Hayashi Masumi

絵本作家

絵話塾出身の先生です。



京都府生まれ。京都精華大学美術学部デザイン学科卒業後、グラフィックデザイナーとなる。2008年度ギャラリーVie絵話塾修了。第10回ピンポイント絵本コンペ『ねーねーのしっぽ』で優秀賞受賞。自然の匂いや温度を感じる大らかな作品や、動物たちをユーモラスに描き出した作品が人気。『とんとんとんだれですか？』（岩崎書店）『たんぽレストラン』（ひかりのくに）『どんどろめがね』（佼成出版社）『ねこぼん』（偕成社）など、絵本多数。最新刊は『ひだまりまりちゃん』（チャイルド本社）



授業の進め方

2018年度から「絵本ゆっくり」コースを担当している、はやしますみです。私の授業は、連続した4回のワークショップで、アイデアを練り、直すことを経験してもらいます。これが描きたい！と思いついたアイデアは、15場面の絵本にするまでに、自信がなくなったり、本当にやりたかった事を見失ったり、最初の輝きが鈍ってしまうことがあります。自分が一番作りたかった事に向き合いながら、絵本を一冊仕上げていきます。
あと絵本作家になった経緯、出版社への売り込みの方法などのお話しをする予定です。みなさん最初から絵本作家の人はいません！必ず初めがあるのです。みなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

松田 素子
Matsuda Motoko

編集者



山口県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。偕成社絵本編集部に所属。後に『月刊MOE』の編集長を務める。1989年に偕成社を退社後、フリーで絵本を中心に企画・編集・評論の分野で活躍。これまで300冊以上の本の編集に携わる。また自然や科学の分野においても、企画・編集および執筆者として活動している。







授業の進め方

これまで300冊以上の絵本の誕生に関わってきました。その誕生秘話と経過のダミーなどを具体的にお見せしながら、絵本が生まれてくるために最も大切な、作品の根っこの作り方や育て方からお話ししようと思います。時代を超えて読み継がれてきた絵本の力を、もう一度再確認する話も織り交ぜながら進めていきます。
「読む力」と「創る力」とはつながっています。その上で、皆さんの作ったダミーを、現実的な出版の可能性という立場から講評します。読者としてもこれまで以上に絵本を楽しめるようになって欲しいし、それが作家としての底力（根っこ）につながっていくことを願っています。

わっくん
WAKKUN

絵本作家
イラストレーター



神戸市生まれ。本名、涌嶋克己（わくしまかつみ）。1986年の初個展以来、毎年、関西を中心に展覧会を多数開催している。1990年絵本『ほっ』を出版。物語を空想しながら絵を描く少年の頃の気持ちがこもった独特の作品は、数多くのファンから「WAKKUN」の名とともに親しまれている。阪神・淡路大震災の時にWAKKUNのキャラクターに励まされた人は多い。





授業の進め方

授業は「起承転結」のお話を四人一組で作ったり、大きな和紙に墨と筆で絵や言葉を描いたりします。あまり絵本と関係ないように思えるかもしれませんが、これも表現の大事な肝になります。後半は「じゃばら本」というものを使って一冊の作品に仕上げていきます。ボクがよく生徒さん達に言っているのは「上手く描こうとしない」ということです。上手く描くことよりもその時に感じた温度や湿り気なども一緒に表現できたら素晴らしい。自分自身感じた心の震えまでもどんなやり方で作ると良いのか、一緒に探していきましょう。

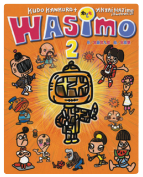
講師 PROFILE | イラストコース

安齋 肇
Anzai Hajime

イラストレーター
アートディレクター



東京都生まれ。桑沢デザイン研究所デザイン科修了。TIS会員。音楽に関するさまざまなビジュアルから、キャラクターデザイン、雑誌連載、装幀、アニメーション、ナレーション、展覧会や音楽活動など多岐に渡って活動。1992年よりテレビ朝日系「タモリ倶楽部」空耳アワー、TV ドラマに出演することもある。チョコベビーズ、勝手に観光協会、LASTORDERZ、宿題工作展オバンドス、フーレンズのメンバーとしても活動中。宮藤官九郎原作の絵本『WASIMO』や作品集『work anzai』ドローイング集『drow anzai』を出版。2016年初監督映画作品『変態だ』を撮る。



授業の進め方

ボクの授業では、毎回一人ずつに課題を出していきます。
皆さんは、それぞれ描きたい絵、手法、好みなどそれぞれ違いますので、各自のやりたい方法をこの一年で見つけていってほしいと思います。
「絵話塾」は実験の場でもあります。また、絵の好きな、絵を描きたい人達が集まっていますので、いろんな描き方を試して皆の反応を見ていくと良いと思います。「絵話塾」を多いに活用してじっくりと楽しんで下さい。



イナキ ヨシコ
Inaki Yoshiko

イラストレーター



京都府生まれ。(有) ゴーズデザインを経て、2000年よりフリー。1996年玄光社イラストレーション「ザ・チョイス年度賞」特別賞受賞。2002年原宿・ROCKETにて初個展。
石井好子『巴里の空の下オムレツのにおいは流れる』(扶桑社) 田辺聖子『残花亭日暦』(角川書店)等の書籍装画、『PARCO』やセレクトショップ『VIS』などの広告やノベルティグッズ、NHKラジオ第2放送のテキスト「英語で読む村上春樹」のイラストを担当。「Polka dot」(服飾雑貨／京都) のショップカード・ロゴやテキスタイルを担当。



授業の進め方

毎回雑貨作りを行います。自分が作って楽しく、身につけて嬉しいものを作っていきます。
例えば絵を買うとなると少し勇気が要りますが、雑貨ですと気軽で手軽です。人にプレゼントするなどのコミュニケーションツールとしても使えます。
授業で作るのは、年度によって違いますが缶バッチ、染色、名刺作りなどです。缶バッチも一枚の絵柄の中から、切り取る場所を変えるだけで全く異なる作品に仕上がります。見え方・見せ方は無限にあります。人に喜んでもらうと自分も嬉しく、制作の励みになります。

おさない まこと
Osanai Makoto

イラストレーター



神戸市生まれ。宝塚歌劇関係の制作のアシスタント、デザイナーを経て87年よりフリーのイラストレーターとなる。
現在は東京在住。主な仕事としてNHK教育TV連続ドラマ「ミニモニ。でブレーメンの音楽隊」エンディングタイトル立体イラスト、JR東海新幹線キャラクター、パルメザンチーズのキャラクター「パルメくん」、長野朝日放送TVキャラクター「モーリーとりんごちゃん」等を制作。小学校の教科書『新しい算数』(東京書籍) の表紙。関西でも神戸須磨パティオのキャラクター「パティ」を制作。毎日ランニングとウクレレを楽しんでいます。



授業の進め方

イラストコースの中で唯一「立体」の授業を担当しています。
ボクは「立体」を作って、カメラマンと組んで撮影するスタイルをとっています。イラストといえば平面作品を思い浮かべる方が多いと思いますが、粘土も画材の一つと捉えて使えば、絵の幅と可能性も拡がります。
授業では、物語の一場面を立体で制作し、撮影してカレンダーを作ります。背景や登場人物の服など、何でも皆さんの工夫で頭をひねりながら一緒に作ります。
先生に教わるという受け身ではなく、自分達で考えて進んでいく力を身につけていってほしいと思っています。

たかい よしかず
Takai Yoshikazu

HAPPY CREATOR



大阪生まれ。大阪芸術大学デザイン学科卒業。(株)京田クリエーション入社後、多くのキャラクターデザインを手がけ、イラストレーターとしても活躍。見る人を元気づけられる作品を作ることがモットー。代表作に明治『マーブルわんちゃん』、西宮市キャラクター『みやたん』、招き猫とダルマを合体させた『ネコダルマンワールド』を展開。童心社『怪談レストラン』シリーズの装丁・挿絵、くもん出版絵本『おはなし・くろくま』シリーズなど多数。2001・2003・2006・2011年イタリアボローニャ国際絵本原画展入選。





授業の進め方

キャラクターデザインを中心に授業を進めていきます。
絵の世界は上手い下手ではないんです。ボクの考えでは「やる・やらない」、「好き・嫌い」、「合う、合わない」の3つではないかと思っています。一歩踏み出せばその先必ず何かにつながるはず。でも、やめたらそこで終わりなんです。ボクが今この絵の世界にいられるのは絵を描くことをやめなかったからです。描き続けるためには何をすれば良いのか、授業でお話していきたいと思います。またおすすめの書籍やマンガ、アニメ、映画、展覧会など毎回紹介していきます。

寺門 孝之
Terakado Takayuki

画家・イラストレーター



名古屋市生まれ。大阪大学文学部美学科卒業。セツ・モードセミナー卒業。1985年第6回日本グラフィック展大賞受賞。光溢れる天使や、溶けるような夢や物語の世界を描き、個展をはじめ、書籍の装画、広告、ライヴペインティングなど幅広く活動中。著書に『納豆の大ドンブリ』(岩崎書店)『てらぴか映画日誌』(風濤社)、『DREAM DREAM』(ブルース・インターアクションズ)、『天使のカレンダー』(リトルモア) 絵本『ぼくらのオペラ』(イースト・プレス) など多数。2010年公開の映画「人間失格」で主人公が描く絵を担当。現在、神戸芸術工科大学教授。



授業の進め方

主に課題を出して講評する形をとっています。これまでに出した課題の例で言いますと、「わたしのアイドル」「変身願望」「読書感想画」など。今はネットでいくらでも検索できるので、調べてもあまりわからないような、自分自身で考え、想像できる、そうせざるを得ないような課題を、と思っています。
絵を描くことは、太古から人類が今まで永く生み出してきた行いです。いまあなたが絵を描いたとすると、それは人類史上何番目かの絵になる訳です。歴史的瞬間なのです。絵を描くとは一体どういうことか。そういった大きい広い視点で見ていくことも含めて、皆さんと「絵」について深く話し合っていきたいと思っています。

寺田 順三
Terada Junzo

イラストレーター



大阪生まれ。2000年カムズグラフィック設立。以降、関東・関西で作品展多数。独特のレトロな作風で愛らしい動物たちを描いた作品は、どの世代にも人気がある。オリジナルの雑貨やぬいぐるみも多数。
絵本『タビの雑貨屋さん』(学研)『カルルとふしぎな塔』(白泉社)『ボクらはオコジョのおまわりさん』(佼成出版社)『ようこそぼくのおともだち』(あかね書房)等があり、『カルルとふしぎな塔』はアニメーションにもなっている。アメリカのブランド「chronicle Books」で多数のグッズデザイン・イラストを担当。世界中で販売され人気を博している。
2019年阪急うめだ本店のバレンタインのディスプレイを担当。

授業の進め方

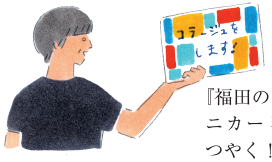
文字と絵の構成を考えながら、「本の装丁」「カレンダー」「パンフレット」等の課題を出し、講評します。
イラストは原画が完成というよりも、人の目に触れるのは印刷された状態のものがほとんどです。どのような状態で完成まで持っていくのか、色の濃淡や文字の配置など細部まで計算して描いていきます。
また、絵は描かないと上手くはなりません。そしてそれを人に見てもらうことが大切です。授業では他の生徒さんの作品もしっかり見て、どうやって描いているのかも聞いて吸収していって下さい。



講師 PROFILE｜イラストコース

福田 利之
Fukuda Toshiyuki

イラストレーター



大阪生まれ。大阪芸術大学グラフィックデザイン科卒業後イラストレーターに。エディトリアル、装丁、広告、絵本、テキスタイルデザインの他、ムーンライダーズ、スピッツのCDジャケットなども手がける。主な著書に作品集『benoito』(ユトレヒト)、『コジナ帖』(ワールドコム)、『福田のフォト絵』(ヴィレッジブックス)『ミニカーミュートだいかつやく！』(アリス館)など。2022 年春から白浜アドベンチャーワールドの動物たちのイラストを手がけ、園内表示やグッズにも展開される。



授業の進め方

時間内に完結するワークショップ形式で授業を進めていきます。
主に「コラージュ」という手法で、切ったり貼ったりしながら制作してもらうことが多いです。平面に描くだけが絵ではありません。コラージュはスピード感や引き算が大事です。授業でやったことをこれで終わりにせず、それを更に自分なりに発展させて、やっていって下さい。
イラストレーターになりたい人は大勢いるので、他の人がやらないようなことをしないと埋もれていってしまいます。常に新しいことを探し試して挑戦してほしいと思います。

弓削 ナオミ
Yuge Naomi

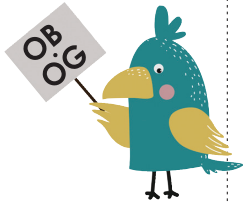
イラストレーター



大阪生まれ。京都芸術短期大学（現京都造形芸術大）ビジュアルデザインコース卒。デザイン事務所勤務後、イラストレーターとして活動。雑誌・書籍・CDジャケット・広告ポスター・化粧品パンフレットなどに作品を提供。個展やグループ展多数開催。女性や猫をモチーフにした作品が多く、どこか懐かしさを感じる世界を、墨・アクリル・デジタル彩色などで表現しています。元専門学校非常勤講師。愛猫家。

授業の進め方

楽しむこと。見つけること。を大切にしながら制作します。いろんな画材を使いながら、描き方のノウハウと、新しい表現方法を一緒に広げていきましょう。
イラストを描いて発表することは、自分をさらけ出すこと。
また、自分だけの世界で満足せずに、みんなの作品を見て刺激を受け、ステップアップしましょう。



絵話塾で学んだことを活かし、修了後も継続的に作品展を行ったり、公募展に出品したり等、活動を続けています。またプロとして活躍している方も多く、ここでは一部だけですが、ご紹介いたします。

『ぼくはくさもち』



「第 38 回 日産 童話と絵本のグランプリ」で宮本和明さんの『ぼくはくさもち』が、優秀賞を受賞されました。

『ワニワニじまへようこそ』



第23回ピンポイント絵本コンペで、ハマダミワさんが『ワニワニじまへようこそ』で入選されました。

『うまれたてのくもくん』



「第 12 回 あたらしい創作絵本大賞」で絵話塾卒業生の天野みえさんの『うまれたてのくもくん』が、大賞を受賞されました。



2022 年「イタリアボローニャのイラスト公募展」に、とよたともこさんの作品が入選されました。

他卒業生は絵話塾のサイトをご覧ください。 https://galleryvie.jp/obog.html

Q&A



この他にわからない事がありましたら、メール・電話でご遠慮なくご質問くださいね。

Q 案内の冊子を見て、特別コースがあるのですね。どんなコースですか?

興味のある３コース（秋から始まる「ドローイング」「イラストレベルアップ」「文章たっぷり」も含む）を受講できるシステムです。絵本もイラストも興味ある方は集中的に勉強できるので、受講料も含めてお得なコースです。ぜひご検討ください。

Q 絵本クラスは水曜日と日曜日があるのですが、何が違うのですか?

どちらも絵本のコースですが、大きな違いは、水曜日は児童文学作家の高科正信さんの文章の講義があることです。またツペラ・ツペラ、土井章史さんは水曜日。荒井良二・木村真・高畠那生さんは日曜日だけのご担当です。

Q 他のコースの授業も受けてみたいのですが、受講できますか?

在校生・卒業生であれば、事前に予約を取っていただきましたら他のコースの授業もスポットで受講することができます（有料）。この場合は用意する持ち物などもありますので、遅くても1週間前までに予約してください。

Q 授業料以外で指定の画材などを購入する場合があるのですか?

画材の指定はなく、ご自身が使いたい画材で構いません。またどんな画材がいいのか分からないときは、スタッフまたは先生に授業後に相談してください。使ったことのない画材に挑戦するのも、勉強になります。ワークショップの材料費がかかることはあります。

Q 絵話塾に申し込みたいのですが、その前に授業見学はできますか?

はい、授業の見学・体験ができます。スケジュールをお知らせしますので、ご希望の授業日がありましたら、メールまたはお電話で受付しています。なお、授業日によって定員オーバーのときは見学ができませんので、ご容赦ください。

Q リモート（zoomなど）で授業を行うことがありますか。

通常は教室で対面授業を行いますが、コロナで緊急事態が発令されたり、先生の体調などで外に出られない時などは、ご自宅やアトリエからリモートで授業をする場合もあります。その場合は教室に来て受講していただいても、オンライン受講でも結構です。

Q 授業を休んだとき、内容等は教えていただけるのですか。

「絵話塾だより」というブログに授業内容を載せています。それを見ていただいたうえで、授業内容を説明します。また配付資料がありましたらお渡しいたします。

●絵話塾だより（ブログ）
http://blog.goo.ne.jp/kaiwajuku

Q あまり絵を描いたことはないのですが、初心者でも大丈夫ですか?

誰にでも最初はありますので、今はあまり絵が描けないということは考えずに、絵が好きでこれから描いてみようと思っている方でしたら大丈夫です。デッサン力をつけるのでしたら、好きな絵やイラストなどを模写してください。

Q 絵本やイラストの公募展に出したいのですが、何か注意点はありますか。

色々な公募展がありますが、注意することは、自費出版等を促すところは避けたほうがいいですね。おすすめの公募展はここでは割愛しますが、詳しくはお問い合せください。

Q 通っている受講生の年代を教えていただけますか。

年度によって違いますが、これまで小学生の方から70歳代まで幅広くいらっしゃいました。東は千葉県、西は鳥取、広島、沖縄から通われていた方もおられます。年代は違っても絵が好きだという共通のキーワードで、すぐに打ち解けています。

Q 授業日以外に教室に来て、絵を描くことはできますか。

教室が空いている日でしたら、使っていただいて構いません。時間は13時以降で事前に連絡をいただきましたら、自由に教室を使ってください。教室は空調や除菌装置もありますので安心して使っていただけます。



絵話塾
tel.078-332-5808
kaiwajuku@galleryvie.jp

お申し込みから入塾までの流れ

1 コース選定

- 絵本ゆっくり塾
- 絵本わくわく塾
- イラストじっくり塾
- 特別会員コース

4コースがありますので、興味のある講座をお選び下さい。
※秋からの講座「イラストレベルアップ」「絵本レベルアップ」「ドローイングクラス」「文章たっぷり」の4コースは、別の申込用紙になりますので、ご希望の方はお申し出ください。
※入塾に際し、簡単な面接を行う場合がございます。

2 申込方法

- 郵送での受付
- 当塾での受付
- Eメールでの受付

▼郵送の場合

右頁の申込用紙に写真を貼付し、必要事項をご記入のうえ、ギャラリー Vie（ヴィー）絵話塾までお送り下さい。

送付先
〒650-0022
神戸市中央区元町通3-2-15
セントラルビル元町5F
ギャラリー Vie（ヴィー）
絵話塾まで

▼当塾で直接の場合

右頁の申込用紙に写真を貼付し、申込書に必要事項をご記入のうえ、「ギャラリー Vie（ヴィー）絵話塾」までお持ち下さい。
※場所は下記の地図を参照

▼Eメールの場合

お名前（ふりがな）・希望コース・ご住所・連絡先（固定電話または携帯）・メールアドレスを絵話塾まで送信してください。確認がとれ次第、受領書を送付いたします。
FAXでの仮申込もできます。
（後ほど申込用紙を郵送またはご持参下さい）
fax 078-332-5807

3 必要なもの

- 写真（申込書貼付用）
- 申込書（自筆）

写真は本人と分かるものであれば携帯で撮ったものでも構いません。

4 申込受付期限

- 授業開始日の3日前

当日消印有効

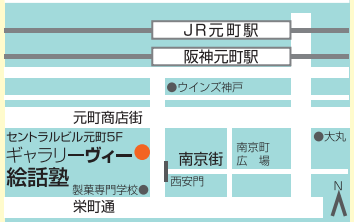
但し、各コースとも定員になりしだい申込受付は終了させていただきます。

5 見学・体験受講

各講座とも見学・体験受講を随時受付しておりますので、ご希望の方は絵話塾までメールまたはお電話で、お申し込み下さい。
☎078-332-5808
kaiwajuku@galleryvie.jp
※見学・体験受講は各コース1回ずつ



お問い合せ先・申込書送付先
〒650-0022
神戸市中央区元町通3-2-15
セントラルビル元町5F
ギャラリーヴィー 絵話塾
tel 078-332-5808
fax 078-332-5807
e-mail
kaiwajuku@galleryvie.jp



絵話塾の場所
JR・阪神元町駅西口下車南へ徒歩約3分。ビルの1Fにホリーズカフェがあります。ビルの左側の扉から入って奥にあるエレベーターで5Fです。

6 お支払い方法

支払時期はご相談に応じます

受講料はお申込みから1ヵ月以内に下記の方法でお支払い下さい。

■ 銀行振込
三菱UFJ銀行
神戸中央支店　普通口座
口座番号　3892520
名義　ギャラリーVie
村上政行（ムラカミマサユキ）

■ 郵便振込（ゆうちょ銀行同士）
記号14320 番号48425941

■ 郵便振込（他行からの場合）
店名　438（ヨンサンハチ）
普通・口座番号4842594
名義　村上政行

■ 現金書留／受講料と申込書を同封のうえ、ギャラリーヴィーまでお送り下さい。後日、領収書を郵送いたします。

■ 現金／ギャラリーヴィーまで直接お持ち下さい。

■ 分割払／ご相談に応じます。

右の申込用紙をコピーしていただいても結構です。

右の申込用紙を郵送または直接ご持参下さい

授業スタート
- 絵本ゆっくり塾（日曜日）…… 9月頃
- 絵本わくわく塾（水曜日）…… 9月頃
- イラストじっくり塾（土曜日）…9月頃

kaiwajuku@galleryvie.jp
- ホームページ
https://www.galleryvie.jp
- 絵話塾だより（ブログ）
http://blog.goo.ne.jp/kaiwajuku

絵話塾だよりは授業内容、次回のお知らせ等の情報が載っています。

- フェイスブック
facebook.com/kaiwajuku
- Twitter
twitter.com/kaiwajuku
- Instagram
kaiwajuku_insta

受講料

- 絵本ゆっくり塾
- 絵本わくわく塾
- イラストじっくり塾
- 各講座　年間受講料

入会金…… 33,000円
年間の通信費等・雑費… 5,500円
授業料……212,300円
合計 250,800 円
（税抜価格 228,000 円、税 22,800 円）

特別会員
下記の中からお好きな3コースを1年間受講できます。
- 絵本ゆっくり（日曜日）
- イラストじっくり（土曜日）
- 絵本わくわく（水曜日）
- イラストレベルアップ（土曜日）
- 絵本レベルアップ（日曜日）
- ドローイングクラス（土曜日）
- 文章たっぷり（土曜日）

授業料
入会金…… 33,000円
年間の通信費等・雑費… 5,500円
授業料……396,000円
合計 434,500円
（税抜価格 395,000 円、税 39,500 円）

2022年度 第19期生 申込用紙

kaiwajuku 絵話塾©



ご本人確認のために必要です。顔写真を貼付して下さい。カラー、モノクロどちらでも構いません。プリンターで出力したものでもOKです。

申込日　　年　　月　　日

ふりがな

氏　名

男・女 ※男女の記入は自由です。

生年月日 ※生年月日の記入は自由です。
年　　月　　日

受講コース（ご希望のコースを○で囲んで下さい）

- 絵本ゆっくり塾（日曜日） A 14:00~16:00　B 17:00~19:00
  Bクラスは10名以上で開講
- 絵本わくわく塾（水曜日） 14:00~16:00
- イラストじっくり塾（土曜日） 14:00~16:00
- 特別会員 左下に内容を記しています。
  特別会員コースの受講料は左記参照

住所　〒

都道
府県

連絡先

TEL

携帯

FAX

E-mail　パソコン

携帯
※授業の連絡に必要です。アドレスをお持ちの方は必ずご記入下さい。

勤務先（学校）
※記入は自由です。

ご注意
各講座とも先着順に受付しておりますので、定員になり次第締め切らせていただきます。受講料はコースの開講ができない場合にのみ、全額返金いたします。
中途退学による返金はいたしませんのでご了承下さい。



kaiwajuku
絵話塾©

お問い合せ・申込書送付先

ギャラリーヴィー 絵話塾
神戸市中央区元町通3-2-15
セントラルビル元町5F 〒650-0022
tel.**078-332-5808**
fax.078-332-5807
kaiwajuku@galleryvie.jp

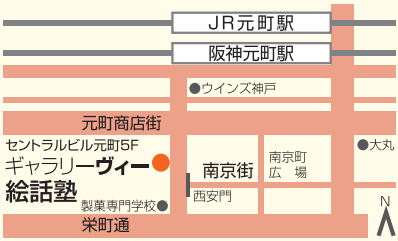
●ホームページ
https://www.gallery.jp

●絵話塾だより（ブログ）
http://blog.goo.ne.jp/kaiwajuku

●フェイスブック
facebook.com/kaiwajuku

●Twitter
twitter.com/kaiwajuku

●Instagram
kaiwajuku_insta



https://www.gallery.jp

illustration・ishizaka tomoko